

洛友会会報

京都大学工学部電気系教室内
洛友会
〒615-8510
京都市西京区京都大学桂
075-383-7014

洛友会ルネッサンス

関西支部の取組み

関西支部長 森本 浩志 (昭40年卒)



(1) はじめに

「改革なくして成長なし」年を重ねるごとに月日の経つスピードが早く感じられますが、昨今の社会情勢の変化は、それを上回るものであります。

私の勤務先でも「変わらぬ使命のため変わり続ける関西電力」のキャッチコピーで改革に取り組んでいます。洛友会でも、本部は勿論、各支部で改革が必要との問題意識を持っているところであり、昨年、洛友会改革WGを

設置し、さまざまな検討が進められています。

この状況と関西支部の取組みの一端を記します。

(2) 改革の背景

〔大学〕

平成16年からの国公立大学の独立行政法人化により、学校経営の視点が重要となり、同窓会は学外との貴重な接点として、従来にも増して連携が必要になってきています。また、電気系教室も学際化の流れにあり、桂キャンパスへの移転は変革の契機でもあります。

〔企業〕

企業経営は各ステークホルダーの中で、特に、株主、お客さまの価値創造を重視してきており、CSR (企業の社会的責任)、コンプライアンスそして透明性、公平性といった経営が求められています。

す。このため、福利厚生行事あるいは社内での同窓が集う会合などは縮小、廃止の流れにあり、同窓会への広告費も支出することが困難になっていきます。

〔個人〕

企業の動きにあわせ、グループとしての活動が少なくなり、同窓会への参画意識が薄れ、会費の収入減へとつながっています。また、ITの進化と共に、個人情報取扱いが難しくなっています。

このような背景のもと、従来、支部長会社が家族見学会や会員名簿への広告募集など活動の大半を実施してきましたが、もはや組織として実施することは困難になっており、支部長の選任も難しくなっています。

(3) 大学への帰属

洛友会の運営は、これまで大きな見直しもなく、企業主導による活動を継続してきましたが、社会全体の変化の中で、今後は、教室内に設けた専任体制とするともに、活動内容については、学外に意見を求め、見直しをするなど、教室が主体となった体制への移行が活性化につながると考えます。

(活動見直しの例)

- ・ 学校内 (時計台等) での講演会、懇親会など大学と連携した活動
- ・ 家族見学会については存続する場合でも参加者の費用負担を原

則とする方向での検討が必要。また運営にあたっては、OBのボランティア参加など幹事負担の軽減をはかることも必要。

平成17年度の関西支部家族見学会は、関西の利点を生かし大学との連携を取り入れ、午前は保津川下り、昼食懇親会のと午後には京大桂キャンパス施設見学と長尾眞会長のご講演「情報と日常生活」という催しとし、会員相互ならびに会員と大学の交流がはかれました。

(4) 個人情報の管理

会員名簿の発行は広告の取止めにより財政上厳しい状況にあるものの、必要であり、電子化し発行する方向ですが、個人情報の管理が必要です。

平成17年4月の個人情報保護法の施行により、一層関心が高まっている中、個人情報の流出が新聞で頻繁に目にするようになっていきます。特に最近では意図的に第三者に提供するということではなく、インターネット上で、ウィニ一というファイル共有ソフトウェアを介したウイルス感染により、知らない間に情報が流出するケースが目立ってきており、社会問題化してきています。

関西支部では、名簿に掲載している住所や勤務先といった個人情報の取扱いについて、どのように対処すべきか独自に調査し、改革

WGに提言しました。同窓会については、個人情報事業の用に供しているわけではなく、保護法の対象外となっているものの、6千名もの会員情報をお預かりしている以上、法律に準じ

事務局が変わりました。

洛友会事務局分室 会員管理担当

〒606-8305 京都市左京区吉田河原町14
財団法人近畿地方発明センター内
財団法人イオン工学振興財団気付
TEL : 075-752-5777
FAX : 075-751-7599
E-mail : rakuyu-adm@ion.or.jp
事務 : 井尻 勤、高木敦子

洛友会本部事務局

〒615-8510 京都市西京区京都大学桂
京都大学大学院工学研究科電気工学専攻
TEL : 075-383-7014
FAX : 075-383-2258
Email : e-rakuyu@kuee.kyoto-u.ac.jp
事務局長 教授 大澤靖治
事務職員 : 山田美津紀

て適正に取扱うことが望ましいのは当然です。

例えば、名簿の冒頭ならびにホームページ、洛友会報などに名簿の利用目的の周知や、情報掲載を拒否する場合の連絡先を記載し拒否の機会を提供するなど、今後十分に配慮し、皆様に安心して利用頂ければと思っています。

(5) おわりに

昭和27年11月、洛友会が発足しましたが、その折、初代会長鳥養利三郎先生のご挨拶には「人と人とのつながりは大切、そして有難い。まして同学同門の交わりは、偶然的運命的なものであるにしろ、我々をどれだけ力づけるか言を要しない。卒業生すべてを打って一丸とし、親愛のルツポに溶かし込むことに努めよ」とあります。時代が無機質化しつつある現代にこそ同窓会の役割が生きてくると思います。

長尾会長の改革にかける強い思いのもと、洛友会が活性化し、発展することを祈って止みません。

教室だより

平成17年度卒業生の進学就職状況について(報告)

- 電気工学専攻長 小林 哲生
- 電子工学専攻長 石川 順三
- 通信情報システム 吉田 進
- 電気電子工学科長 橘 邦英

平成17年度の電気系教室卒業生の進学就職状況について報告致します。平成17年度の進学就職状況を纏めたものを表に示します。以下、電気系教室における就職指導をどのように行ったか、また学生の進学就職の傾向などについて、修士課程学生と学部学生の順に、簡単に説明致します。

電気系教室への企業からの求人依頼は、まだ多少不況を抜けきれなかった平成17年度においても四百数十社からありました。この要因としては、洛友会の先輩諸兄が社会で幅広く活躍されていることも大きく影響しておりますが、電気系教室においても、学部・専攻において幅広い電気関係の知識が取得できるようカリキュラムを整えているものと思われまます。電気系教室を卒業する学生に対する求人は、電気関連企業はもちろんですが、他分野の企業からも求人が増えてきています。それは、エレクトロニクスがあらゆる分野において産業基盤技術となってきたり、電気電子の知識を持った卒業生が広く他の分野からも求められます。しかし、電気電子工学科の入学定員は130名と限られており、このような社会の要請に十分応えられないのは残念なことです。

電気電子工学専攻を例にとり、平成17年度の就職指導の方法を紹介致します。例年と同様に、前年度の1月〜2月期に学生への最初の就職説明会を開催し、その後学生に対して進路アンケートを3回にわたって実施し、5月初旬に全学生に対して面接を行って就職希望先を絞るといった比較的確の細かい指導を行いました。学校推薦を希望する学生に対しては、最終的に推薦枠に納まるよう十分時間をかけて指導を行いました。最終的には一企業への集中はそれほど起こりませんでした。一部の企業では調整が必要でした。学生の就職方法としては、学校推薦と自由応募を選ぶことができますが、電気電子工学専攻では従来通り学生に対しても企業に対しては学校推薦と自由応募の何れかを選択してもらおう方式で進めました。平成17年度も大多数の企業が学校推薦を希望してこられました。一部は、一部の企業では自由応募のみというところもありました。学生も学校推薦を希望する者が多く、約8割が学校推薦で就職を決めました。自由応募の学生は2割程度ですが、その中には5月中旬の推薦時期には応募を締め切ってしまう鉄道関係、放送関係なども含まれていますので、実質的に自由応募で就職する学生数は、1強割程度でした。就職先としては、全般的にみると電気関係、通信関係、電

力関係、機械・自動車関係などに例年と同様はばばに分散した状況でしたが、平成17年度の特徴としては、多少自動車関係への希望が多かったことでしょうか。これはマスコミによる企業業績報道が影響しているように思われます。情報学研究科では、企業毎の学校推薦枠を特に設けていませんので、関西の一部の企業に学生が集まる傾向が見られました。これも平成17年度だけのことではありません。なお、傾向としては、多数の電機メーカーがマッチング面

接とか称する自由応募と学校推薦制を企業側の論理で都合良く組み合わせた制度を導入してきたことが挙げられます。就職先企業については例年とほとんど変わっていません。博士課程に進学する学生の数は依然として少ないのが現状です。21世紀COE科学研究費をこの数年間博士課程学生に支援しているにも拘わらず、それほど博士への進学率が増えていいません。増えない理由の一つとして、日本の電気関係の企業がそれほど博士課程

平成17年度卒業生進学就職状況

工学研究科(電気工学、電子工学)、情報学研究科(通信情報、知能情報、システム科学)、エネルギー科学研究科(エネルギー社会・環境科学、エネルギー基礎科学、エネルギー応用科学)、電気電子工学科

修了、卒業生数	修士	学部	進学・就職先
進学	5		京都大学博士課程工学研究科電気系
	1		京都大学博士課程情報学研究科
	1		京都大学博士課程エネルギー科学研究科
		70	京都大学修士課程工学研究科電気系
		33	京都大学修士課程情報学研究科
		7	京都大学修士課程エネルギー科学研究科
		2	東京大学修士課程
計	7	114	その他
官公庁等	1	2	広島市、特許庁、日本宇宙航空開発機構
電気関連	50	3	三菱電機、日立製作所、東芝、ソニー、松下電器産業、NEC、住友電工、シャープ、ローム、日本IBM、村田製作所、福井村田製作所、日新電機、古野電気、キーエンス、富士通BSC、GE横河メカニカルシステム、新日本無線、フィリップスエレクトロニクス、旭化成エレクトロニクス、富士通テン、日本テキサスインスツルメント、ルネッサンステクノロジー、セック、任天堂、アイビームシステムエンジニアリング
通信	9	2	NTT西日本、NTTドコモ、NTTドコモ関西、NTTデータ、NTTコミュニケーションズ、KDDI、ソニーエリクソンモバイルコミュニケーションズ、NHK、読売テレビ
電力・ガス	3	1	関西電力
機械・自動車	26	0	トヨタ自動車、日産自動車、本田技研、三菱自動車、デンソー、三菱重工、川崎重工、石川島播磨重工、リコー、キヤノン、コニカミノルタ、富士写真フイルム、神戸製鋼、JFE、パロマ
鉄道	2	1	JR西日本、JR東海、阪急電鉄
金融・商社等	5	3	野村総研、リクルート、マッキンゼー&カンパニー、トランス・ニュー・テクノロジー、西教特許事務所、JPモルガン証券、みずほフィナンシャルグループ
未定・研究生・帰国	1	5	
計	97	17	

を修了した学生を求めておらず、博士課程修了学生に対する待遇がそれほど良くないことが影響しているように感じられます。ぜひ、博士課程修了学生が就職したときの待遇を良くして戴くことをお願いできればと思います。

次に、学部学生の進学就職状況について説明致します。大学院修士課程の入学定員が増えたことにより、約85%の学生が進学することになりました。そのため、卒業研究で研究室に配属された学生はほとんどが進学希望であり、夏休み初めの入試までの期間大学院の受験準備には専念する状況になっています。これが良いことか悪いことかは何とも言えませんが、良いという方からは、このとき初めて学部の授業の復習ができて身に付くことができるという意見があります。一方悪いという方からの意見は、1年間の卒業研究期間があるにも拘わらず前期は卒業研究に身が入らない状態が過ぎ、結局卒業研究を半年という不十分な短い期間で仕上げることになってしまふというものです。また、平成17年度では、大学院修士課程の入学枠が比較的多かったこともあり、8月の大学院入試後に就職する学部学生の数は例年に比べると少ないという特徴がありました。電気系教室では、電気電子工学専攻が桂キャンパスに移転してから約2年経過し、ようやく落ち着

いて研究ができる環境になってきました。移転直後は、福祉などにおいて条件の悪い環境で研究をづけていましたので、電気電子工学専攻に進む学生が少なくなるのではないかと懸念もありましたが、最近桂キャンパスも住みやすくなり、このような懸念もなくなってきました。平成17年度は、修士課程の2年間をフルに桂キャンパスにおいて研究を続けた学生が始め就職活動を行った年度でした。今後、電気系教室の卒業生の就職に対して、洛友会の会員諸兄の絶大なご支援をお願いしたいと思っております。

会員寄稿

学術研究と

大学の国際的評価(続)

岩贈 弘三(昭28年卒)

2. 大学の国際比較

(1) スイスのビジネス・スクールによる比較
世界24カ国で同時印刷され、時差の関係で日本が最も早く読めると言われているFinancial Timesの2004.1.26号に、スイスの有名なビジネス・スクールが2002年に実施した大学の国際比較が掲載されています。対象とした49ヶ国中、日本は49位であり、義務教育におけるサイエンス教育は30位であると報道しています。

(2) 上海交通大学による「世界のトップ500大学」調査
これもたまたま、上記と同じFTの2004.10.16/17週末合併号ですが、2ページに亘ってEUが大きく騒いでいる世界のトップ500大学の記事を載せています。そのタイトルは「如何にしてハーバードは先頭に立てるようになったか」であり、副題は「豊かで超競争的な米国のライバルが順列に挑戦するまで：オックスフォードとケンブリッジは世界における2個のピークと考えられていた。いまや、英国の主な教育関係者は、1960年代の平等主義を、新しいアカデミック・エリートのために、放棄することを期待している」とあります。因みにケンブリッジは3位、オックスフォードは8位で、科学系ノーベル賞も1970年代までは世界の1/5を獲得してきたのが、1/10以下になったと嘆いています。

その詳細は、Webを利用して「World Top Universities」などで検索できますが、比較の根拠は、人海戦術を厭わない中国らしく、卒業生の活動、ノーベル賞受賞数、学会誌での被論文引用数、Nature、Scienceなどへの掲載論文数などを調査し、公平にするために規模を考慮に入れていきますので、奈良先端科学技術大学なども入ってきます。日本では、100位までに北海道と九州を除く旧帝大、続いて、北

大、九大と続き全部で35大学が、世界の500大学に含まれます。ちなみに、上海交通大学は、中国の一流大学で、九大、名大、立命館大、早大など多くの大学と、協定を結んだり、研究員・留学生の交換などを行っています。文部科学省が、30余りの大学を特別扱いしようとしている根拠は、マスコミに現れませんが、数値的には似ているのに驚かされます。

(3) 私立大学の学生の動向

私の住居の近くに、女子学生が多い私立大学が2校あり、10時過ぎや12時過ぎの大学向けのバスは非常に混んでいて、車内では「週に1日は大学に行かない自由な日を設けている」などと話しています。大学へは4日間、しかも短時間行っているに過ぎません。最も熱心に勉強し、学問も身に付け、人間として成長する時期に、親のスネを翳り大学に遊びに行っているのです。これでは、日本流に卒業をさせてもらっても、気楽な生活から厳しい就職生活に入れずに、安易なニート族などに多くの若者なるのも当然だと思います。イラク戦争の勃発直前に、当時予想された避難民受け入れの準備にヨルダンに出かけたことがありました。このとき、他の団体から、洛友会員も工学部の教授になって、かなり名の知れた私立大学の英文科卒で、外国でも働いてたという30歳半ばの人と行くこと

になりました。このような人ならば英語も流暢で、こちらは負い目を感じるようになるだろうと心配していました。しかし、あまりにもひどく「大学で何をしていたのですか」と尋ねると「テニスをしていました」との回答に「テニスをしていただけで、大学を卒業させてもらえるのですか」と驚いたことがあります。

(4) 会社における状況

かつて、日本電気株式会社の系列会社で、70名余りの技術系大学卒を採用し、社内教育後、試験をしたところ、95点から10点まで分散した経験があります。本来ならばエリートとしてどんどん良い仕事をさせて成長させるべき人まで含めて、全員を大学卒として同程度に扱わねばならぬ日本の無駄を、私たちの若かった頃と比較して感じます。

人口が日本の半分の英国の大学数は131校に過ぎず、他の欧州諸国も似たような状況であるにも関わらず、日本は、700余りの大学を作り、国も地方も親も随分無駄なことをしていると思つていきます。(元)

京大大型計算機センター 設立の頃

三輪 修(昭34年卒)

1959年卒業と同時に富士通に入社し、コンピュータの開発に

夢中になっていたが、91年に仙台に赴任し、そのまま仙台での生活が続いている。この間東北大学の先生方との付き合いが増えた。昨年まで洛友会東北支部長として活躍された大家寛君は同期生である。その後を受けて支部長になられた伊藤貴康(昭37卒)さんから、洛友会会報にコンピュータ開発時代の話でも書いてほしいとのお話があり、キーを叩くこととなった。

話は京都大学大型計算機センター設立当初に遡る。当時筆者は、国産初のICコンピュータで、二つのCPUを持つFACOM230-60(以下60)という超大型コンピュータの開発に着手していた。京大との強い絆がなければ、60の成功、ひいては富士通のその後はどうなっていたか。当時を思い出すたびに奇妙な戦慄を覚える。この機会に、その頃の京大と60の関わり的一端をご紹介します。

(1) 初めに

1967年4月4日、電算機課長の池田敏雄さんのお供をして京都へ向かった。京大における初の機種提案説明会は、京大と富士通が互いに心中を探り合う感じではなかったか。当時富士通はFACOM230-50を持っていたが、日立のHTAC5020に遅れをとっていた。その上HTAC5020はすでに東大で稼動していた。京大としても日立に決めればセンター開設後の気苦労も少ない筈だ。しかし東大

の2番煎じは免れないだろう。京大の独自色を出すには日立以外で行くしかなかったに違いない。その日説明会を終えた後直ぐ帰京したが、その時はまだその後の急激な変化は予想だにしていなかった。実はその1年前、長尾真君や鷹尾和昭君に会い、60の構想と熱い思いについて語っている。また、60納入後、西尾英之助君と「障害」をテーマに生体コンピュータに繋がる議論をしたことがある。三人とも同期生であり、京大で教鞭をとっていた。

(2) 機種提案説明会

富士通はFACOM230-50での提案を止め、開発中の60でいく決断をした。その説明会前夜(67年5月13日)、池田さんと大阪営業所に向った。当時京都には富士通の営業所がなかったのである。コップ一杯のビールと簡単な夕食のあと、夜遅くまで翌日の「京大説明会」のための検討、資料作成そしてリハーサルを行った。本番ながらの熱のこもったリハーサルであった。翌14日は日曜日であった。大阪から京都へ向かい、京都ホテルで説明会の責任者である小林大祐さん(当時取締役・昭10卒)と合流した。説明会には富士通の他6社が参加した。富士通に与えられた時間は11時半から12時20分までであり、時間が来ると先生方が入室される前に、大急ぎで前夜作った説明用の紙を壁に綺麗に貼って

いった。当時はパソコンはもちろんOPもなく、説明会には大きな紙にマジックで書いたものを使った。池田さんの説明は、短時間に富士通の提案骨子、60を中心としたシステムの特徴を遺憾無く表明するものであった。説明会場には富士通のやる気と情熱が満ちており、その熱気は機種選定委員の先生方にも少しは伝わったのではないか。

期が決まっているため、納期も大切な要件であった。60はいわゆるペーパー・マシンであり、その上ソフトウェアについてはかなりの問題があると認識されておられた。しかし、センター開設時には国産機としては最も新しい機種となる見込みであること、ソフトウェアについては富士通の熱意を信頼し決断に至ったものと思われる。60が両者の運命を担うことになり、身の引き締まる思いであった。

国産コンピュータを育ててやろうという先生方の熱い思いを未だに忘れることはない。後年のこと、KDC-Iを開発された矢島脩三先生から「FACOM230-50は大変ご苦労様でした。私共も大変深い感銘をうけました。なにせPaper virtual computerをreal computerにされたのですから」とのコメントをいただいた。嬉しかった。

(3) 内定に至るまで

5月29日、京都大学大型計算機センター設置準備委員会第一小委員会の方々が、富士通川崎工場に來られた。林忠四郎委員長、西原宏先生、萩原宏先生他大勢の先生方が、工場見学(視察)のあと試算に立ち会われた。それから10日後のこと、京大が60に決めたとの情報が飛び込んできた。夢が現実に一歩近づいたのか。6月12日京大が正式に60採用を決定し、機種選定委員会を解散したという情報が入った。もう間違いはないが、こうなると納期が大問題である。

(4) 京大側の思い

待望の京大を受注したが、当時機種選定に関わっておられた萩原宏先生が、60決定までの状況を「京都大学大型計算機センター十年史」に書いておられる。そこには先生方の苦衷がにじみ出ている。HTAC5020Fが稼働実績があるのに対し60は試作中のものであり、先生方は大変困られたようだ。大

(5) 京大センター運用開始

工場では60製造を最優先し、ハードウェアは何とか納期をクリアしたが、問題はソフトウェアとOS(オペレーティングシステム)にあった。68年の終わりが近づくにつれ、京大センターでデバッグに明け暮れるOS担当者の有様は、まさに戦士であった。このOSの開発でも京大の先生方による叱咤激励、ご指導、ご協力が大きな支えとなったのもありがたいことであった。

69年1月、何とかセンターの運用が始まったが、当初はバッチ処理のみであった。6月頃石原センタール長、丹羽義次先生がお揃いで当時の富士通岡田社長を訪問され「いつになったら約束通りソフトウェアが完成するのか」と激しく督促されたそうだ。10月、世界でも類を見ない2CPUマルチプロセッサによるマルチプログラムミングの処理が始まった。

趣味の話

「スケッチ」について

平田 康夫(昭40年卒)

昭和40年卒の我々は、40年目の節目に当たり、4月22日〜23日に40周年記念同窓会を京都で開催することになっている。電気総合館での講演会、桂キャンパスの見学、嵐山での大パーティ、嵐山や嵯峨野の散策、保津川下り、ゴルフなど盛り沢山の催物が予定されている。本同窓会における講演会に当たって、電子卒の松本紘理事が「最近の京都大学の概況」と題して講演をされること、がまず決まり、もう一人だれかと言うことで、電気第II卒の私に対して、何か話をするようにとの依頼があった。肩の凝る話をして折角の同窓会の雰囲気をおち壊してもいいかなも

http://homepage2.nifty.com/Miwa/

のかと考え、「これからの人生、楽しい趣味の話」と題して、スケッチの話でもすることにしました。そして、どのような話にしようかと考えつつ、本原稿を書かせてもらっているところである。

スケッチを始めてかれこれ25年になる。当時、研究開発の傍ら標準化活動に携わっていた関係で、国際会議に出席のため海外特にヨーロッパに出かける機会が多かった。歴史を感じさせる街並みや素晴らしい田園風景を眺めているうちに、いたずら半分に写生をしてみたのが、スケッチを始めたきっかけである。最初は、鉛筆や水性

ペンで構図を描き、色鉛筆で色塗りをしたりしていたが、その後色々試した結果、全く我流ではあるが、耐水性のドローイングペンと透明水彩絵具の組み合わせで描く方法に落ち着き、現在に至っている。

私の作品例を少しばかり紹介させていたきたい。スケッチ1は、フランス・ブルゴーニュ地方の最高級ワインを造っているロマネコロンチ村を眺めながら描いたものである。見渡す限り黄色く色付いた10月中旬のぶどう畑は私の最も好きなヨーロッパらしいモチーフの一つである。2枚目のスケッチは、ご存知のように、京大正門前であ

る。瀟洒なフランスレストランがオープンするなど、時計台建物内が新装され、かつて乱立していた立て看板などが一掃された後の、すっきりした京大の表玄関を描いたものである。

手軽に誰でもが年齢に関係なく楽しめる趣味として、スケッチをお勧めしたい。「私は才能がないから」、「どうも子供の頃から絵は苦手で」と言った声をよく耳にするというより意外に上手いくものがある。スケッチのための道具は、太さが0.5ミリ程度のドローイングペンと水彩絵具に加えて、B5版程度のスケッチブック、筆、水筒

くある。山あり川あり、秋の紅葉、春のさくら、初夏の新緑、名所旧跡、由緒ある神社仏閣、情緒溢れる裏通り等々、数え上げればきりが無い。私自身、京都を訪れた際に機会を捉えて、これまでに、疎水、法然院、真如堂、嵐山始め様々などところでスケッチを楽しませていただいた。京都を描くこと

によって、改めて京都の良さを身を持って味わうことができ、京都で青春時代を過ごせたことに大いなる喜びを感じているしだいである。

春爛漫

伊藤 篤(平1年卒)

今年も京都の桜はさぞかし美しいことだと思います。拙宅前の小さな公園の桜を眺めながら、哲学の道の花吹雪に今年も仙台で想いをめぐらすことになるのでしょうか。

さて、少々古い話になりますが、トリノオリンピックの荒川静香選手の滑りは優雅そのものでした。さしもの我が愚妻も、テレビで演技を見ながら感激の余り涙を流していた程です。結果はもちろん見事に金メダル。日本全国が喜びに沸きました。我が愚息達も、スピンやジャンプの真似をしてクルクル回ってはしゃいでいます。きっと日本のあちらこちらで、同じような光景が繰り広げられていることでしょう。

案の定、白人国家の一部のメデア

イアによる悪意に満ちた報道もあったようですが、その様な中傷は本当に見苦しいものです。日本人が表彰台の頂点に上ったことで、水泳やスキージャンプ、ノルディック複合のように、日本人が不利になるようなルール変更が行われ

ないとも限りません。そんなことにならない様に切に願います。ちなみに、荒川選手は、東北支部のある仙台市で育ちました。更には、仙台市は国内フィギュアスケート発祥の地でもあるようです。不思議な巡り合わせを感じます。

話は変わって、所謂「ゆとり教育」が見直されることになりました。ようやく、といった感じがしない訳ではありませんが、有識者と呼ばれる輩の方々が散々議論して出来上がってしまった制度なので、皆がどこかおかしいと気付いていても引くにひけない状況だったことは容易に想像できます。しかし、その悪影響はもう取り返しがつかない状況のようです。子供達はゆとりの時間を何に使ったか。貴重な時間の大部分はゲームへと費やされたようです。加えて小学生に英語を教えようという動きがあるようです。一体誰が仕掛けた何のための陰謀でしょうか。いつも感じるのですが、このような重大な政策の立案者は一体誰なのか、誰が決定の責任を負うのか、国家公務員のうちの誰かなのでしようが、氏名を明らかにした上で



スケッチ1 ロマネコンチにて



スケッチ2 京大正門前にて

議論・決定をしていただきたくないと強く思います。とにかく、小学生は鍛えれば鍛える程伸びるので、国語と算数を徹底的に教え込むような制度に戻していただきたいものです。大量の税金を使うのですよ。我が愚息達も現在小学生ですが、皆さんも直接話を彼らに聞いてみてください。半分強の子供達は、もっと勉強したい、もっと知りたいと言いますよ。

さて、三番目の話題に移ります。来年からいよいよ平成生まれの世代が社会人として世の中に出てまいります。本当に昭和は遠くなりました。斯の如く話す私は、実は平成元年、バブル景気絶頂期の入社組です。新人類と呼ばれた世代です。そんな私も今年で四十歳。立派な中年。前厄です。厄払いのため、正月には神社に裸参りをしました。満願成就のため、大厄・後厄と続けてお参りすることにしていきます。私は決して年を取ることに抵抗感はありません。したがって、団塊世代の皆さん、つまり、戦争を知らない老人世代の皆さんが、ギター片手に「まだまだ青春だ」と氣勢を挙げる姿にはやや違和感を覚えてしまいます。そうは言っても、やはり平成世代が入社してくると聞いて、平成入社の方も妙な節目を感じざるを得ません。斯言う自分は、いつも心がけているのですが、高望みせず、中年らしく、洒落や、風刺が

利用して、ちょっとエッチなおじさんの生き方を目指しています。ところで、裸まわりは大変気持ちが良いものなので、機会があれば皆さん是非参加されることをお勧めします。今年は厳冬でしたので、身体は寒さで痛みを感じるくらいでしたが、精神を集中しているので全く風邪をひく心配はありません。参拝後の直会で熱い豚汁を頂くと本当に疲れも取れます。仙台転勤の折に是非どうぞ。

さて、紙面も残り少なくなってきました。昨年までの二年間、初めて単身赴任を経験しました。そうはいっても仙台と盛岡なので仙台から通勤しようと思えば通えた距離ですが、学生時代以来の一人暮らしで懐かしく感じましたが、やはり阪神タイガースが優勝してくれました。私が一人暮らしを始める時必ず阪神はその年に優勝するようにです。前回優勝の時は、私が京大に入学して下宿生活を始めた時です。今年は家族と一緒に暮らしているので優勝は「？」でしょう。ファンの皆さま、申し訳ありませんがそういうことのようにです。仙台には、現在プロスポーツチームが三つもあります。サッカー、野球、バスケットと勢ぞろいですが、熱心なファンがたくさんいて、本当に地域に根ざしてうまく回っている感じがします。決して今のところ成績優秀という訳ではありませんが、いつか阪神と楽天

の日本シリーズ、ガンバ大阪とベガルタ仙台の優勝決定戦が実現することを祈って筆を置きたいと思えます。

最後に、洛友会事務局から原稿の提出は是非電子メールでとお願いがあったのですが、私はパソコンも持っておらず、インターネット接続もしていません。今時珍しいのでしょうか、おかげで情報漏洩の心配はないようです。

インド旅行記(前編)

岡崎 幸治(平8年卒)

今は妻子があり、特に小さい赤ん坊がいるため海外旅行に行きづらい状況だが、独身の頃は年に1回、1週間くらいの休みがとれると、海外へ1人旅に行っていた。

会社員であるため、1週間くらいの短い期間しか休みがとれないが、海外へ行くときはバックパックカーのような旅をしていた。バック旅行などを利用するのではなく、飛行機の往復チケットのみを購入し、宿泊は現地を探す。宿泊にはホテルは使わず、日本円で1泊100〜300円くらいの安宿に泊まったりして、つかの間ではあるが放浪の旅人になったような気分を味わったものである。

行き先はアジアばかりを選んでいましたが、その中で一番印象深かったのがインドを旅行した時であった。インドへ行ったのは、4年前の

2月だった。その当時はインドとパキスタンの間が少し険悪になっており、デリー市内でも爆弾テロが発生していたこともあり、かなり不安を感じていた。しかし、本でインドへ行く価値観が変わるなどということを読んでいたこともあり、一度は行ってみたい国であったため、不安を覚えながらも行き先をインドに決めた。

初日は、福岡空港からタイのバンコク経由でデリーへ向かった。バンコクでデリー行きの飛行機へ乗り換えしたが、バンコクまでの飛行機と違いインド人ばかりが乗ってきて、日本人は全くいなかったため、タイで気軽に楽しむ人はいななどと思いつながらかなり不安を覚えていた。

機内では、インド行きの飛行機らしく、機内食はカレーのようなものが出てきた。日本のカレーとは違い、在日インド人が料理するインド料理と同じようなものだったが、なかなかおいしかった。

そしてバンコクを飛び立って約3時間後にインドの首都デリーのインディラ・ガンディー国際空港に到着した。到着したのは夜10時くらいで、日本の時間では深夜になっていた。入国審査、税関を通り、出口へ着くと、遅い時間にも関わらず出迎えのインド人が大勢いた。

実はここがインド入国時の最初の難関であり、トラブルの絶えな

い場所である。ここで、たくさんインド人が「タクシー、タクシー」と自分のタクシーに乗せようとしますが、こういうタクシーはタクシーが悪く、客が指定した場所には行かず、怪しい旅行会社へ乗せて行くのである。そこに入ってしまうとたちまち数人の男達に監禁され、法外な料金のツアーを組まされて、最悪の場合はカシミール地方(インド・パキスタン国境の紛争地域)に連れて行かれたりする。トラブルが多いそうだが(後日会ったインドを旅行中の日本人も同じトラブルに会い、数人のインド人に囲まれ殴られて、追いかけて逃げ惑い、眠れない夜をすごしたという話を聞いた)。プリペイドタクシーも空港にあるが、同様なケースが頻発しているらしい。

そこで、初日の分だけは前もって出迎えを行ってくれる宿泊先(ホテルではなく安宿だが)へメールを使って、宿泊と出迎えの予約をいつていた。出迎えの人が私の名前を書いた紙を持って出口で待っていたので、本当にほっとした。出迎えの人が来ていなければ、上記のとおりタクシーを使えないため、待合室で夜を明かさなければならぬと思っていたからだ。

そして出迎えの人が乗ってきた車に乗って、宿泊先へ向かった。出迎えの人は20代前半くらいの男性だったが、ガールフレンドはいるかだの「ジギジギ」だのときき

りに話かけてきた(「ジギジギ」とは話の流れから性交のことを指すインドの隠語のようだった)。

深夜だったこともあり、ハイテンションのドライバーとのやりとりで疲れを覚えながら、約30分くらいで宿泊先のゲストハウスに到着した。場所はニューデリー駅前の通りで通称「メインバザール」という有名な安宿街だが、暗くて様子がよく見えず、インドに来た実感はあまり湧かない。だが、道端に牛がいるのが見える。

宿泊先の「Aary Guest House」に入ると、日本語が達者なインド人の宿主が対応してくれた。「地球の歩き方」にのっているゲストハウスらしく、日本人の客にも慣れている感じだった。中にはレストランや数台のパソコン、ビリヤード台まであり、欧米のバックパッカーが好みそうな雰囲気であった。ツアーも扱っているようであり、タージマハルで有名なアーグラへはその日帰りツアーを利用しようと思った。

宿泊費は1泊170Rs(日本円で約300円)でやはりかなり安い。部屋に案内されるとベッドが1台とその上に毛布が1枚あるだけだったが、不潔な感じはなく、不満はない。トイレを見るとやはりインド式(水で尻を洗う方式)だ。しかし、さすがに水洗いはためらわれたので、ティッシュペーパーをつまらせないようにして使

うこととした。

その夜は移動だけで疲れてしまったので、シャワーを浴びるとすぐベッドに横たわり眠った。デリーでは、2月は昼間は20度くらいの気温で過ごしやすいが、夜は5度くらいに下がり少し冷え込む。その宿には毛布1枚しかないため、寒くて夜中に何度か目が覚めてしまった。

2日目は、現地時間で朝5時頃目が覚めた。外で何やら宗教音楽っぽいのが流れておりそれで目を覚ました。さっそく宿の外に出てみた。夜は暗くてよく周囲がわからなかったが、外は日本ではありえない眺めだった。インド式の店舗や建物が通りに建っており、やはり通りの真ん中を牛が堂々と歩いていた。通りを歩くとチャイ売りのおじさんから「チャイ、チャイ」と声がかかる。インドに来たんだなとこのとき初めて実感した。

以上、2日目の朝までインド旅行の顛末を紹介させて頂いたが、インドには1週間ほど滞在した。続きはまた中篇、後編を書かせて頂く機会があれば紹介させて頂きたいと思う。

本部だより

洛友会本部からの近況報告

木村 磐根(昭30卒)

昨年1年間は洛友会改革案を煮

詰める年でありましたが、平成18年度はそれを実行に移す年になります。会員諸氏のご支援を是非よろしく願ひ致します。

具体的には、若い層の会員に洛友会に対する親近感を持っていただく必要が感じられています。そのこともあって、4月からは洛友会本部事務局を京都大学の桂キャンパスに移すことになりました。応用科学研究所には長い間事務局のお仕事をお引き受け頂きましたこと、洛友会として厚く御礼申し上げます。

この3月に卒業する電気電子工学科の学部学生には、これまで同様洛友会に入会して頂くのですが、これまでは事務的に会費だけを集めるということで対応しておりました。本年から3月24日の卒業式後、教室でも卒業生を講義室に集め、学科長から卒業証書の授与を行い、はなむけの言葉を述べられる機会が作られ、そこで長尾 眞会長から洛友会のご説明を頂ける事になりました。学部卒業直後から洛友会会員としての意識を強く持つてもらえるのではないかと期待しております。また入学式の日(4月7日)にも、教室でのガイダンスに長尾 眞会長が洛友会の説明をして頂きました。平成18年度の学科長は、新入生だけでなく、4月に実施される2年、3年、4年生のガイダンスでも洛友会の資料を配布して説明して下さること

なっています。

洛友会改革WGでの結論の一つとして、学生を含む現電気関係教室と、洛友会との密接な連携の必要性の認識がありました。学生が電気電子工学科に入学した時点から洛友会という同窓会の存在を意識してもらおうという具体策の一つであります。

また電気関係教室の情報誌Cueを、会費を払って下さっている会員全員にお送りすることを本年2月から始めました。一方、本部ホームページからも洛友会報とともにCueのすべてのバックナンバーをご覧いただけるので、インターネットをお使いの会員からは本誌の郵送は不要であるとお返事を多数頂いております。教室および洛友会にはできるだけ関心を持って頂けるよう期待していますが、一方郵送料等の経費をできるだけ削減して、会の財政を楽にして頂ければ大変有難いことでもあります。

洛友会報4月号には郵便局のほか、どこコンビニでも振込みをさせていただける会費納付書を同封いたしますので、どうか会費納付には全面的にご協力のほどお願い致します。5年分まとめて納付できるようにしてはどうかという会員からの建設的なご意見も頂いておりますが、会費管理事務が大変複雑になることもあり、今後の検討事項と致しております。また本4月号会報と同封いたし

ました長尾 眞会長からの「名簿

管理と名簿発行のための調査用紙ご記入のお願い」にも述べられておりますよう、本年秋には会員名簿を発行することで準備を始めたいと考えています。会員の方々には色々のご意見をお持ちとは存じますが、会員にとつて役に立つ名簿が発行できますようこの調査には是非ご協力をお願い致します。勿論個人情報

の流出などが決して起らないよう事務局側も十分配慮致します。なお本号森本関西支部長の巻頭言にも述べられておりますように、各支部にお願いして名簿広告費を集めることは困難な時勢となつてきていることから、広告なしで発行せざるを得ません。そのこともあって、今回名簿の発行ができたとしても、今後はこれまでのように隔年ではなく3~4年の間隔となります。なお先述しました新しい洛友会本部事務局のアドレスと責任者名は本会報第1面に示しております様になりました。それとは別に会員管理会費徴収などの事務のための分室を近畿開発センター内に置いておりますのでご承知おき下さい。

役員会報告

平成17年度役員会は去る2月4日(土)午後2時より開催され、長尾会長、本部役員および北海道を除く8支部長が出席され総勢16名で議事が進められた。

議題は平成18年度事業計画案並びに予算案のほか、4月1日より事務局の変更および本部役員の内幹事の変更が承認された。

幹事の異動は左記のとおりです。

推昭45 松重和美(任期満了退)

昭48 鈴木実(新)

昭41 島崎眞昭(副会長就任予定)

昭46 吉田進(新)

推昭32 松本博(事務局退)

昭44 大澤靖治(事務局新)

(注)本年度は役員改選の年度ではないので大澤、吉田幹事は

前任者の残余期間となります。事務局 記

本部総会開催のお知らせ

平成18年度本部総会は左記により開催されます。多数の方々のご来場をお待ちいたしております。

日時 平成18年5月28日(日) 14時30分

場所 ホテル京阪・京橋 (関西支部総会終了後)

TEL 06-6353-0321

支部だより

中国支部

第4回 企業見学会開催

中国支部では、平成17年11月12日(土)に「第4回 企業見学会」を開催しました。

今回は、岡山県倉敷市の株式会社クラレ倉敷事業所(玉島)を訪れ、中国支部としては初めてとなる岡山県での見学会を実現することができ、岡山方面からの参加者を含め11名の会員の方に参加していただきました。

株式会社クラレは、レーヨンの事業化を目的として倉敷市に誕生した会社で、人工皮革「クラリーノ」、不織布「クラフレックス」、面ファスナー「マジックテープ」が有名ですが、現在は独自性の高い製品群を化成品、樹脂、繊維、機能材料、メディカルなど様々な分野で展開しています。

倉敷事業所(玉島)では、2002年からボイラー用の燃料である石炭の代替燃料としてバイオマス燃料(建築系解体木屑)を導入し、バイオマス発電により工場に電力を供給しており、当日はこのバイオマス発電設備を見学しました。ビデオとパンフレットにより概要を説明していただいた後、2班に分かれ、バイオマス燃料の燃料化設備から制御室まで工場内をご案内いただきました。

クラレ様には、ご多忙中にもかかわらず、丁寧にご案内いただき、会員一同、バイオマス発電に関する知識を深め、地球温暖化防止や循環型社会の形成への取り組みに感銘を受けることが出来ました。

見学会後は倉敷市の美観地区で昼食会を行い、その後、観光シー

ズンで観光客でにぎわう中、倉敷の古い町並みを散策し、会員間の交流を深めることが出来ました。

最後になりますが、今後ともより多数の会員に参加していただける企画を実行し、洛友会中国支部の活動を盛り上げていきたいと思

います。平岡 正憲(平10年卒) 記

支部総会のお知らせ

平成18年度の各支部総会は左記の日程で開催されます。場所・時間など詳細は各支部幹事の方よりご案内があります。ふるってご出席ください。

5月13日(土) 北海道支部

5月19日(金) 九州支部

5月26日(金) 中国支部

5月28日(日) 関西支部

6月3日(土) 北陸支部

6月23日(金) 四国支部

6月24日(土) 東京支部

6月24日(土) 中部支部

7月1日(土) 東北支部

事務局 記

事務局だより

平成17年度会費納付状況報告

毎年行っている2月末日現在の会費納付状況についてご報告いたします。

2月末日現在の会員数は6867名で会費を収めて頂いた会員数は2079名でした。前年より1

図1. 年度別納付状況

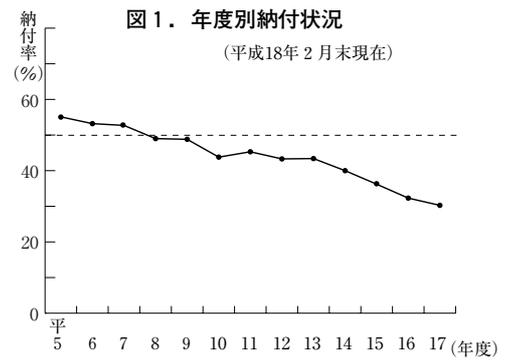
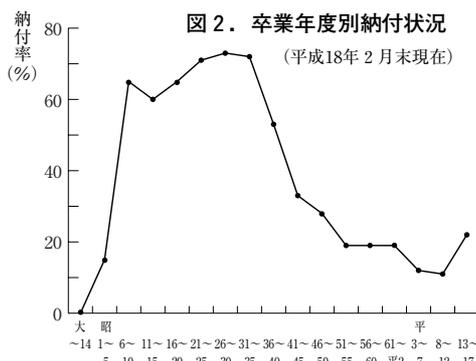


図2. 卒業年度別納付状況



11名の減少となりました。納付率は30%となり前年より更に低下し過去最低となりました。

図1は年度別の納付率を示し、図2は卒業年度別のグラフですが平均値で前年より2.0%低下しています。

本部だよりで記載のように、本

年度からは従来の郵便局での振込に加えコンビニエンスストアでも振込が出来るように改められました。皆様のご協力が得られるものと願っております。

編集後記

永年に亘って洛友会の運営に関する各種改革が唱えられてきたが、いよいよ本年から改革の第一歩がスタートいたします。

目下は事務局の移管、会費振込み制度の変更ですが順次進むことでしょう。会のご発展を祈っています。

事務局を拝命し約10年間でしたが皆様のご指導・ご協力には厚く感謝申し上げます。

事務局 記

訃報

Table listing obituaries for members: 講昭13 内山 茂 (17.12.19), 昭16 武田 進 (17.8.31), 昭16 武田 正三 (18.2.19), 昭17 柴山 廣 (18.2.28), 昭19 松本 肇 (17.10.29), 昭21 木村 義郎 (17.8.21), 昭21 山根 明 (18.1.13), 昭22 松岡 史郎 (17.9.30), 昭24 安藤 慶一 (18.3.23), 昭25 今堀 八郎 (18.2.18), 昭27 塚本 昭三 (18.2.18). A note at the bottom states: '以上の方々がご逝去なさいました。謹んで哀悼の意を表します。'